

ロードストーン・セミナー  
「日本・メキシコ自動車産業の最新動向とビジネスチャンス」

2014年9月10日

本日、在日本国メキシコ大使館のエスパシオ・メヒカーノ（多目的ホール）において、プロメヒコ主催及び当大使館後援のロードストーン・セミナー「日本・メキシコ自動車産業の最新動向とビジネスチャンス」が開催され、サンタック（Suntak）、シティウス・キャピタル（Citius Capital）、ベーカー&マッケンジー（Baker & McKenzie）、豊田通商の各社が参加した。

当大使館代表は、その開会の辞で、2013年の一年間を通じて5000社以上の外資企業が350億ドル以上（対2012年度比178%増）をメキシコに投資した点をふまえ、世界レベルにおいてメキシコが投資対象国としてベスト・オプションである旨強調した。

その内の15億3800万ドル（全体の4.4%に相当）が日本企業による投資額であり、メキシコのFDI（\*海外からの直接投資受入れ額）の国別ランキングでは、日本は世界レベル第4位、アジア域内第1位の座を占めている。現在、800を上回る数の日本企業が進出しており、自動車部門がその大半を担っている。こうした企業群は、メキシコが提供するビジネス環境のメリットを十分に活用していることが指摘された。さらに、エンリケ・ペニャ・ニエト大統領が就任以来行ってきたエネルギー改革をはじめとする各種改革は、二国間関係を強化するのみならず、その効果が他の分野へと波及することが確実視される。

当セミナーを通して、メキシコに投資する機会の判断材料となる不動産、建築、法律、自動車産業等に関する最新情報が、約100名の参加者へ提供された。



ロードストーン・セミナーの参加者